

「主イエス、天に上げられる」

2016年02月05日

使徒言行録1章6節～11節。さて、使徒たちは集まって、「主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか」と尋ねた。イエスは言われた。「父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。イエスが離れ去って行かれるとき、彼らは天を見つめていた。すると、白い服を着た二人の人がそばに立って、言った。「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」

主イエスは十字架の死から復活し、使徒たちに度々ご自身を現わされ、語られた。彼らは「主イエスは生きておられる」と喜びに満たされたが、この出来事が何を意味するのか、理解できなかった。使徒たちが集まっていると、復活した主イエスが現われた。彼らは「主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか」と尋ねた。「建て直し」という言葉は終末論的用語で、神が終末時に正しい秩序を回復することを意味している。使徒たちは終末の完成の時期を聞いたのである。それに対し、主イエスは「父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない」と、終末は人知を超えた、神の権威の下で定められた時であると答えておられる。その後、使徒たちに与えられる新しい使命について語られた。「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」神からの聖霊が降される時、あなた方は力を受ける。その力に押し出され、エルサレムから、イスラエル全土、更に地の果てまで、主イエスが死の中から復活されたことを証言する者として、宣教の使命に用いられる。主イエスの十字架と復活によって、人間の罪を赦し「よし」と是認し、死を超えた命に与っている喜びを知らされ、使徒たちは託された福音宣教に忠実に、力強く応えていった。それが、代々の教会の使命になり、福音はエルサレム原始教会から始まり、世界の隅々まで宣教されていった。喜びは必然的に分かち合う仲間を生み出していく。聖霊の働きによって、教会は福音宣教の使命を果たしてきた。神の救済史は、どんな破れの中にあっても、確実に成就しているのである。

主イエスと使徒たちが話しているうちに、主イエスは天に上げられた。そして、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。彼らは主イエスが離れ去り、見えなくなるまで、天を仰いでいた。天とは、自然を超えた超越・永遠を意味する宗教的概念である。著者は、その概念を黙示的、神話的に描いている。更にこの時、白い服を着た二人（天使）が傍に立って、「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる」と告げた。主イエスは天に帰られたが、同じ姿でまたお出でになると、使徒たちは主イエスの再臨を約束する言葉を聞いた。初代教会で篤く信じられた主イエスの再臨による終末への信仰が語られている。使徒たちは備えをして、聖霊降臨を待った。